

故郷の海レスキュー隊計画 2015

イベントの 延べ参加者数	66人
イベント参加者 の満足度	100%
活動の全体目標 に対する達成度	100%



底曳網漁見学

◆成果と工夫したポイント

●成果

海に関心をもってもらい、海ごみの実態を知ってもらえた。知ったことを家族や友達に伝えてもらうことができた。(中学生45人⇒家族約100人⇒友達(6人)約300人)

●工夫

子どもたちの安全性を考慮し、漁港の岸壁からと底曳網の開放から、海底ごみの実態を学習してもらった。

課題

海底ごみは、底曳網漁を生業とする漁師のボランティア貢献活動に依存しなければならないということ、漁師が回収し持ち帰ったごみは産業廃棄物扱いになるということ。

目標

海ごみ発生・排出抑制のための啓蒙・啓発活動により①生き物が棲みやすくなる、②船の故障や事故が減少する、③漁業者の生産性向上が図れる、④海の景観が良くなる等、海的环境と社会活動の改善を図る。

活動内容

①高松市沖の備讃瀬戸海域で、底曳網漁を51名の中学生に視察・見学してもらい、海底ごみの実態を学習してもらうことができた。②男木島大井海水浴場での漂着ごみ一斉清掃と国際基準のICC調査を体験していただき、20袋/40ℓ袋・0.8㎡の漂着ごみを回収することができた。③海ごみ問題に精通した(公財)水島地域環境再生財団の磯部先生と塩飽先生を講師として招聘し、海ごみ問題の総合的座学学習会を開催することができた。

達成できなかったこと

タイムスケジュールの関係で、当初予定していた河川敷での一斉清掃をプログラムに組み入れることができなかった。

今後の展望

山(森)や川の環境が、海的环境にどのように影響しているかの学習プログラムを組んだ学習会を企画したい。



海水浴場漂着ごみ
一斉清掃終了